

メイトルの つばやき

No.20

「人としての責務」

こんにちは！お久しぶりです。みなさん、元気でお過ごしでしょうか。

私は、今年も八百津の伝統的な夏の行事を体験しました。本当に素晴らしい思い出をたくさん作りました。私は日本の夏祭りの雰囲気がとても好きです。

さて、今回は私が高校時代に、参加していた特別な計画についてお話ししたいと思います。今でもその経験は私の生活では貴重なものとなっています。それは「人としての責務」という計画です。



この計画はイスラエルの文部科学省が行っています。その計画の目標は、地域社会と青少年の相互理解を向上させることです。その目標を実現するためにイスラエルの高校1年生達は社会の中で助けを必要とする人々に対し支援をします。

イスラエルの文部科学省によると、青少年はその計画を通じて責任と他人を助けることを体験します。そして、学生達は何の見返りも受けずに他人に心からしてあげるといった経験ができます。つまり、それはボランティア活動です。では、どんな活動に参加できるのか？これから短くご紹介したいと思います。

勉強で困っている小学生に個人レッスンをしたり、自閉症児や障がい児を支援すること、交通事故により障がいを患った方のリハビリを助けること、高齢者のための介護や老人ホームでコンピューター・スキルを指導すること、動物のための医療援助・動物シェルターでのボランティア、消防隊のボランティアなどです。学生の希望により、活動を選ぶことができます。そして、高校生達は高校を卒業するためにそのボランティア活動に参加しなければなりません。これらの活動は、一年間に60時間行わなければならない。

私は、このボランティアで家庭教師をしました。

支援した男の子は10才でした。その男の子は、お母さんと二人で生活していました。彼は、6才の時、ロシアからイスラエルに移住してきました。ですので、学校の勉強の遅れを対処するだけでなく、言語の問題もあり、とてもたいへんでした。私は毎週2時間数学や言語の宿題を手伝いました。そして、私たちは徐々に友達になっていきました。彼は学校のことについていろいろな話をしてくれました。私は勉強だけではなくイスラエルの生活や人々についてさまざまなアドバイスをしました。一年が終わった時、私は「まだ手伝いたいか…」と思いました。そして、学校の活動以外で、一年間家庭教師の活動を続けました。イスラエルでは地域社会でのボランティア活動をすることは非常に重要な活動です。

今、高校時代のボランティア活動を思い出すと、杉原千畝氏のことを思い出します。なぜでしょう。

杉原氏はハルピン学院の校則で「自治三決」の教えを学びました。その中の一つは「報いを求めぬよう」とありました。イスラエルの高校時代の活動も「報いを受けずに助けを必要としている人を助ける」という意味が込められています。杉原氏はユダヤ人である難民から物質的な報いをもらいませんでした。しかし、杉原氏に助けられた人やその家族は今でも杉原氏に感謝の気持ちを持ちつづけています。イスラエルの高校生も感謝の気持ちをたくさんいただきます。

こうして、私たちの人生を豊かにしてくれると私は思っています。



メイトルさんへの質問は
meital@town.yaotsu.lg.jp までどうぞ！

